

教員資格が上位のものであれば、幼児教育・保育の質が上がる



教員資格と、幼児期の学習環境の質の間には正の関連性がある

本レビューの目的

このキャンベル・システマティック・レビューでは、教員資格と幼児期の学習環境の相関に関する現在の経験的エビデンスを調査している。本レビューでは、82の独立したサンプルに対する48の研究から得られた調査結果をまとめている。対象となる子どもは、小学校や施設型保育所よりも、幼稚園に入る子ども、幼稚園児である。

本レビューの調査対象は、教員資格と幼児期の学習環境の質の関係性に関する経験的エビデンスである。教員資格が上位のものであることと、幼児期教育・保育の質に正の相関がある。

本レビューの研究対象

幼少期の教育・保育（ECEC）の質が低いと、社会、感情、教育、健康、経済、行動に関するアウトカムの低下に潜在的に繋がる可能性があるため、子どもの発達に悪影響を及ぼす可能性がある。

教員資格と幼少期の学習環境の質の間に関係性について同意が得られていないので、政策立案者も教育実践家も、教育の初期段階での子どもの学習結果を高める戦略を決めることが難しくなっている。

本レビューで調査するのは、教員資格と幼少期の学習環境の質の相関関係に関する最新の経験的エビデンスである。

レビューの対象となる研究

対象となる研究は、1980年から2014年にかけての教員資格とECEC環境の関係性を調査するものであることが条件であり、それに加え、主要な教師によって受け入れられた教育プログラムの特定と、異なる教育資格を持つ2人以上の教師集団の間での比較を可能にするものであることも条件であった。

さらに、比較デザインかつ、全体的な質的尺度あるいは環境評価スケールのどちらかを報告しなければならなかった。

82人の独立したサンプルにより行われた総計48の研究が本レビューに含まれている。



本レビューの最新度

本レビューの著者は2015年1月までに発表された研究を探した。このキャンベル・システマティック・レビューは2017年1月に発表された。

キャンベル・コラボレーションとは

キャンベル・コラボレーションは、体系的なレビューを発表する、ボランティアによる非営利の国際研究組織である。我々は、社会科学と行動科学におけるプログラムに関するエビデンスを要約し、質を評価している、我々の目的は、人々がよりよい選択と政策決定を行うことを支援することである。

このサマリーについて

このサマリーは、『キャンベル・システマティック・レビュー』2017年1号に掲載された Matthew Manning, Susanne Garvis, Christopher Fleming and Gabriel T.W. Wongによる体系的なレビュー、「教員資格と幼児教育・保育環境の質の関係性」(10.4073/csr.2017.1)に基づき、Ada ChukwudozieとHoward White (キャンベル・コラボレーション)により作成された。本サマリーはTanya Kristiansen (キャンベル・コラボレーション)により編集・レイアウトされた。本サマリーの作成に対するアメリカ調査協会による経済的支援に関し付記する。



本レビューにおける主要な結果

概して、結果によると、教員資格の質の高さは、幼少期の教育・保育の質の高さと有意に相関関係がある。

教師あるいは保育士の教育水準の高さは、環境評価スケールによって測定されたECEC全体の質と正の相関がある。教員資格と、プログラム構成や言語、論理的思考を含む下位尺度の評価の間にも正の相関がある。

本レビューにおける調査結果から得られる示唆

本レビューは、教員資格と幼少期の学習環境の質の間の、統計的に有意な正の相関を示している。エビデンスがいくつかの国におけるものであることを考慮すれば、この調査結果は文化に依存するものではない。

教師が資格を取ることを義務付ける、すなわち高等教育においてそうすることは、施設における教育環境と家庭教育環境において、過程と構成の質を有意に向上させることに繋がるかもしれない。しかし、エビデンスは相関関係のある研究によるものであり、そのため因果効果を判断できる設計の研究から得られるエビデンスが必要である。さらなる研究においては、より高い資格を持つ教師が習得していて、彼らが自らの役割をうまく果たすことを可能にした特殊な知識と技能も見極めるべきである。